

2021年3月期 第1四半期

決算補足説明資料

2020年8月7日
株式会社ナック
東証一部 9788



注) 当社は第1四半期において決算説明会を行っておりません。
この資料は、第1四半期決算をよりご理解いただくために、参考までに作成している資料です。

本資料の記載内容

1. 第1四半期の実績	…	P. 2
2. セグメント別業績	…	P. 9
3. 2021年3月期連結業績予想	…	P.22
4. 配当方針	…	P.23
5. 補足資料	…	P.25

この配付資料に記載されている業績目標等はいずれも、当社グループが現時点で入手可能な情報を基にした予想値であり、これらは経済環境、競争状況、また新サービスの成否などの不確実な要因の影響を受けます。

従って、実際の業績はこの配付資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知おき下さい。

1. 第1四半期の実績

1 2021年3月期 第1四半期：連結損益計算書

(単位：百万円)

	'21.3月期 Q1 実績	'20.3月期 Q1 実績	増減率
売上高	12,727	17,800	▲ 28.5 %
売上総利益	6,430	7,174	▲ 10.4 %
(売上総利益率)	50.5 %	40.3 %	+ 10.2 pt
販管費	6,218	8,417	▲ 26.1 %
営業損益	211	▲ 1,243	-
(営業利益率)	1.7 %	▲ 7.0 %	+ 8.6 pt
営業外損益	▲ 77	▲ 22	-
経常損益	134	▲ 1,265	-
特別損益	431	▲ 4	-
四半期純損益	532	▲ 1,355	-

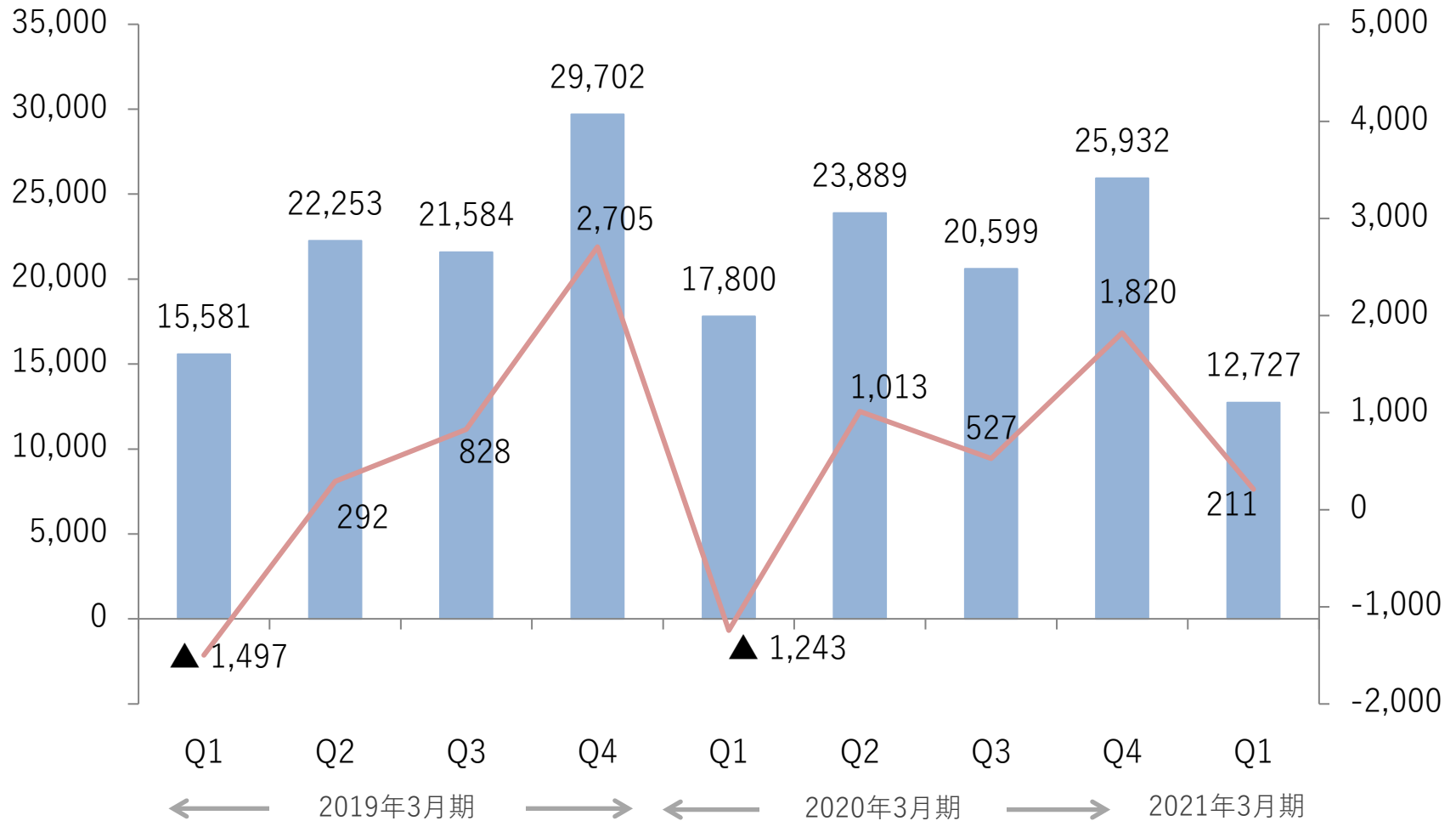
- ▶ 売上高は、主に住宅事業のレオハウス連結業績除外により、前年同期を下回った。
- ▶ 営業損益は、前年同期に計上していたレオハウスの損失の除外とクリクラ事業の大幅伸長により、前年同期を上回り、利益計上となった。
- ▶ 特別損益は、レオハウスの株式売却による特別利益を計上した。
- ▶ 四半期純損益は、営業損益の好転と特別利益計上により、前年同期の損失計上を脱し、利益計上となった。

1 四半期別 売上高／営業利益の推移

(単位：百万円)

■ 売上高 — 営業利益

(単位：百万円)



※ 2020年3月期第1四半期までは、住宅の引渡しが期末に偏るレオハウスを中心とした住宅事業の損失が大きく、営業損益はマイナス傾向であったが、レオハウスの全株式譲渡にともない、当第1四半期では営業利益を計上した。

1 セグメント別：売上高

(単位：百万円)

	'21.3月期 Q1 実績	'20.3月期 Q1 実績	増減率
ク リ ク ラ 事 業	3,844	3,103	23.9 %
レ ン タ ル 事 業	3,508	3,509	0.0 %
建築コンサルティング事業	1,949	1,216	60.3 %
住 宅 事 業	1,670	7,408	▲ 77.5 %
美 容 ・ 健 康 事 業	1,763	2,593	▲ 32.0 %
消 去 調 整 他	▲ 9	▲ 30	-
合 計	12,727	17,800	▲ 28.5 %

- ▶ クリクラ事業は、クリクラボトルの価格改定に加え、直営部門における顧客単価の向上と、加盟店部門におけるサーバー販売数の増加、自社製次亜塩素酸水溶液「ZiACO(ジアコ)」の売上が伸長したことにより、前年同期を上回った。
- ▶ レンタル事業は、害虫駆除事業の売上が減少した一方、ダスキン事業における売切り関連商品販売が伸長し、前年同期と同水準の売上高となった。
- ▶ 建築コンサルティング事業は、当第1四半期よりsuzukuriとエースホームを当事業セグメントに加えたため、前年同期を大幅に上回った。
- ▶ 住宅事業は、レオハウスの全株式譲渡にともない、前年同期を大幅に下回った。
- ▶ 美容・健康事業は、JIMOSの自社ECサイトにおいて使用しているサーバーへの不正アクセスが発生し、一時的にECサイトを停止した結果、顧客数が減少したことが響き、前年同期を下回った。

1 セグメント別：営業利益

※カッコ内の数字は売上高に対する営業利益率を表す。

(単位：百万円)

	'21.3月期 Q1 実績	'20.3月期 Q1 実績	増減率
ク リ ク ラ 事 業	491 (12.8%)	17 (0.6%)	+ 474 (+ 12.2 pt)
レ ン タ ル 事 業	267 (7.6%)	443 (12.6%)	▲ 176 (▲ 5.0 pt)
建築コンサルティング事業	▲ 25 (▲ 1.3%)	60 (5.0%)	▲ 86 (▲ 6.3 pt)
住 宅 事 業	▲ 156 (▲ 9.4%)	▲ 1,350 (▲ 18.2%)	+ 1,194 (+ 8.9 pt)
美 容 ・ 健 康 事 業	▲ 67 (▲ 3.8%)	▲ 136 (▲ 5.3%)	+ 68 (+ 1.4 pt)
全 社 費 用 等	▲ 297	▲ 277	▲ 19
合 計	211 (1.7%)	▲ 1,243 (▲ 7.0%)	+ 1,454 (+ 8.6 pt)

- ク リ ク ラ 事 業 は、直 営 ・ 加 盟 店 両 部 門 に お い て 売 上 高 が 伸 長 し た こ と に よ り、前 年 同 期 を 上 回 っ た。
- レ ン タ ル 事 業 は、利 益 率 の 高 い 害 虫 駆 除 事 業 の 売 上 高 が 大 幅 に 減 少 し た こ と に よ り、前 年 同 期 を 下 回 っ た。
- 建 築 コ ン サ ル テ ィ ン グ 事 業 は、suzukuri、エ ー ス ホ ー ム お よ び ナ ッ ク ス マ ー ト エ ネ ル ギ ー が 赤 字 計 上 と な っ た こ と に よ り、前 年 同 期 を 下 回 り、損 失 計 上 と な っ た。
- 住 宅 事 業 は、レ オ ハ ウ ス の 全 株 式 譲 渡 に と も な い、同 社 の 業 績 数 値 (前 年 同 期 営 業 損 失 計 上) を 当 社 グ ル ー プ の 連 結 業 績 か ら 除 外 し た こ と で、前 年 同 期 を 上 回 っ た。
- 美 容 ・ 健 康 事 業 は、JIMOS に お い て 広 告 宣 伝 費 を 中 心 と す る 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費 を 削 減 し た こ と に よ り、前 年 同 期 を 上 回 っ た。

1 営業利益の増減要因

(単位：百万円)

			前年同期比増加率
2020年3月期Q1 営業利益		▲ 1,243	-
①売上総利益		▲ 744	▲ 10.4 %
※ ②販管費の増減	広告宣伝費及び販売促進費	+ 760	+ 50.4 %
	人 件 費	+ 449	+ 17.4 %
	地 代 家 賃 ・ 賃 借 料	+ 213	+ 35.5 %
	減価償却費・のれん償却費	+ 73	+ 18.3 %
	支 払 手 数 料	+ 52	+ 14.3 %
	そ の 他 販 管 費	+ 650	+ 22.0 %
2021年3月期Q1 営業利益		211	-

※販管費の増減額について,+は損益の増加/▲は損益の減少を表す。

① 売上総利益の減少理由

≫ レオハウスの全株式譲渡により売上高が減少したことによる。

② 販管費の増減理由

≫ すべての販管費の減少は、主にレオハウスの全株式譲渡にともない、同社の業績数値を当社グループの連結業績から除外したことによるが、広告宣伝費及び販売促進費の減少は、JIMOSにおいて売上減少にともない削減したことも大きく影響している。

1 2021年3月期 第1四半期：連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2020年 6月末	構成比	2020年 3月末	構成比	増減額
流動資産	27,259	63.7 %	28,858	62.1 %	▲ 1,599
有形固定資産	9,247	21.6 %	10,615	22.9 %	▲ 1,368
無形固定資産	2,084	4.9 %	2,253	4.9 %	▲ 168
投資その他の資産	4,166	9.7 %	4,626	10.4 %	▲ 460
固定資産計	15,498	36.2 %	17,496	37.7 %	▲ 1,997
繰延資産合計	64	0.2 %	78	0.2 %	▲ 13
資産合計	42,822	100.0 %	46,433	100.0 %	▲ 3,610
流動負債	16,701	39.0 %	20,125	43.3 %	▲ 3,423
固定負債	6,047	14.1 %	6,499	14.0 %	▲ 452
負債合計	22,748	53.1 %	26,625	57.3 %	▲ 3,876
株主資本	20,858	48.7 %	20,601	44.4 %	+ 257
その他の包括利益累計額	▲ 835	▲ 2.0 %	▲ 844	▲ 1.8 %	+ 8
非支配株主持分	50	0.1 %	50	0.1 %	+ 0
純資産合計	20,074	46.9 %	19,808	42.7 %	+ 265
負債・純資産合計	42,822	100.0 %	46,433	100.0 %	▲ 3,610

主な増減要因

■ 流動資産：現金・預金 +2,045 販売用不動産 ▲2,067 未成工事支出金 ▲1,063

■ 固定資産：建物・建築物 ▲5,925 工具器具備品 +1,339 リース資産 +3,272

■ 流動負債：買掛金 ▲2,772 短期借入金 +3,000 未成工事受入金 ▲1,767

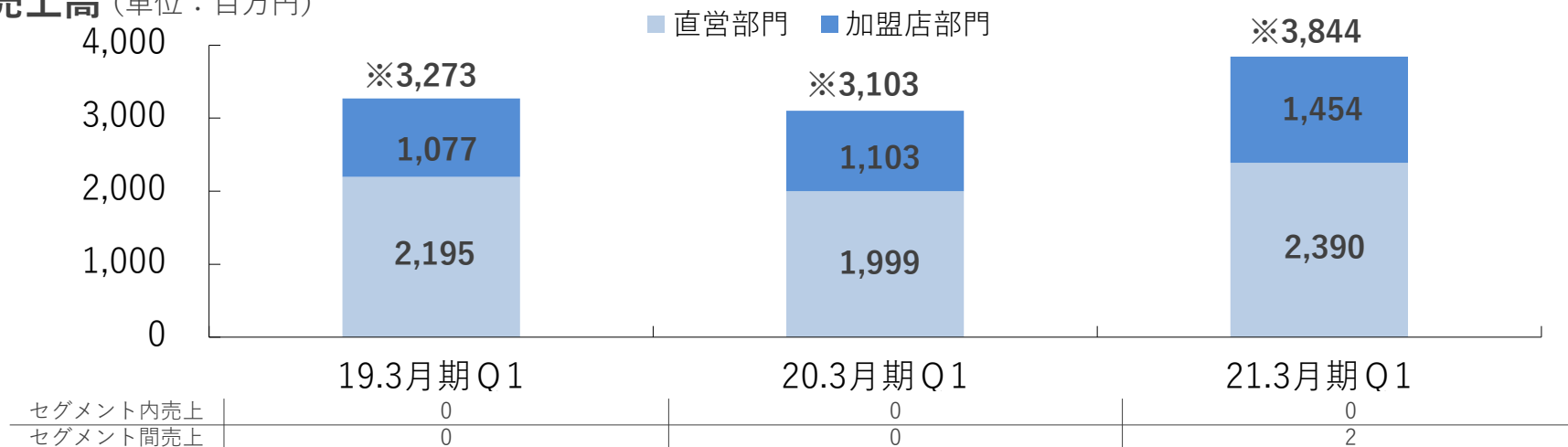
■ 固定負債：長期借入金 ▲430

自己資本比率：46.8 %

2. セグメント別業績

2 セグメント別業績（1）クリクラ事業 ①

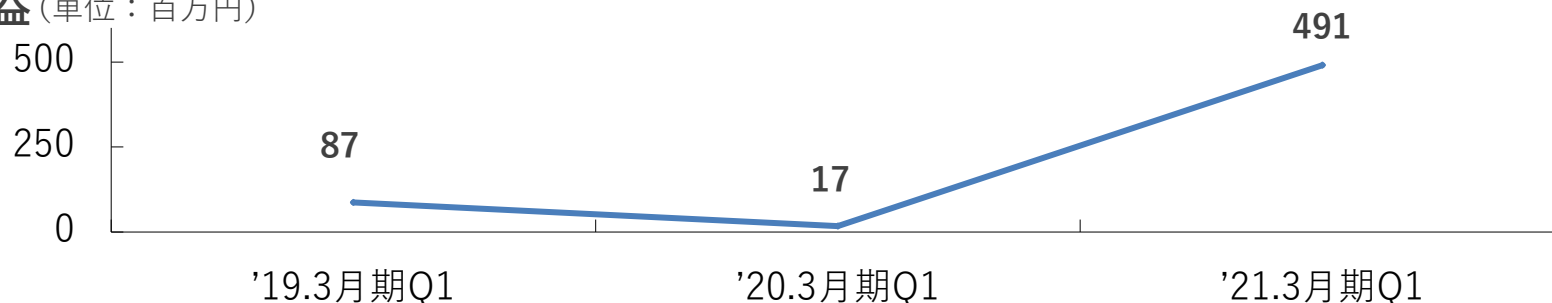
売上高（単位：百万円）



※グラフの数値は上記のセグメント内売上を含む。（単位：百万円）

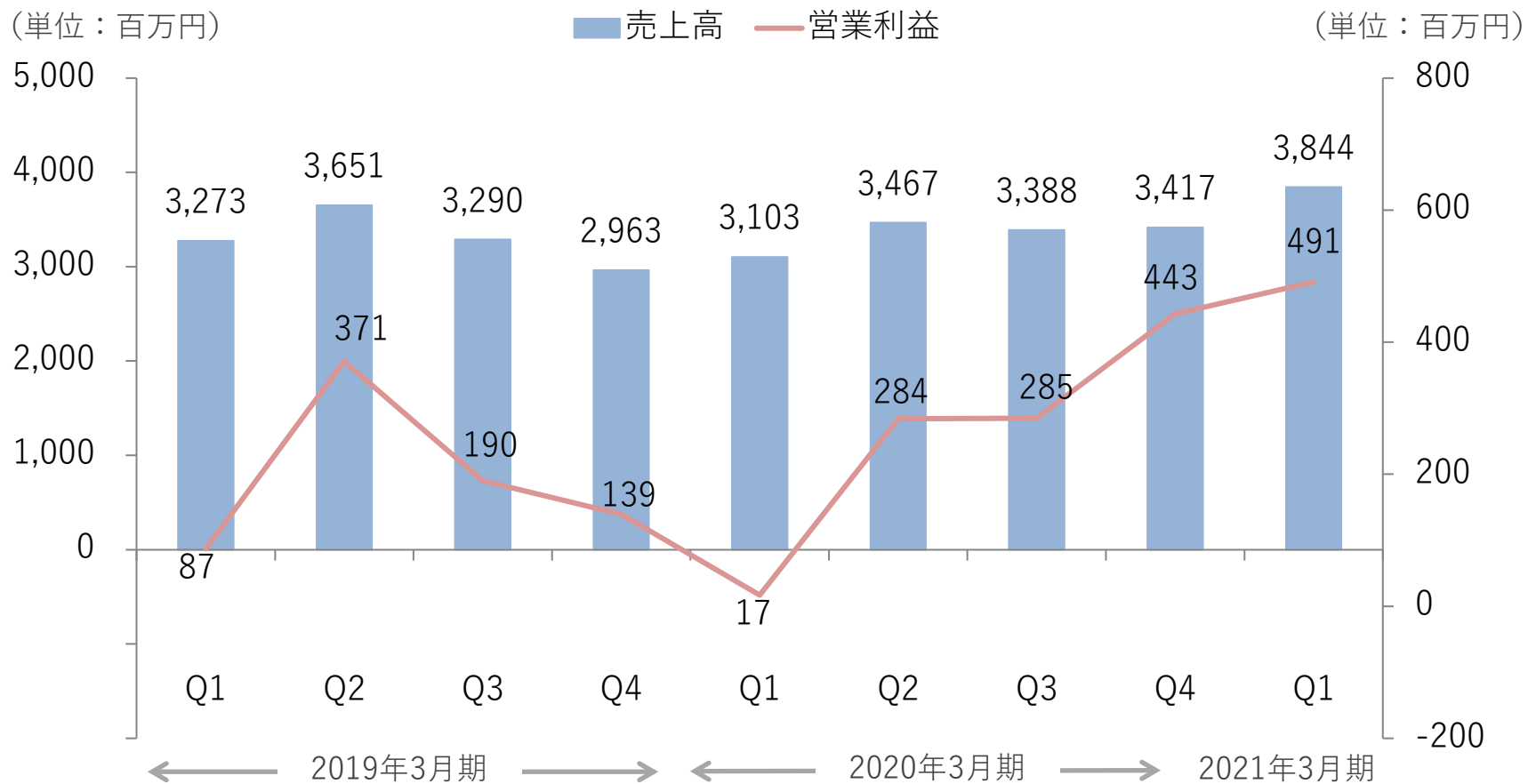
- 直営部門・加盟店部門ともに、クリクラボトルの価格改定と自社製次亜塩素酸水溶液「ZiACO（ジアコ）」の売上が大幅に伸長したことが、前年同期を上回る要因となった。
- 直営部門では、上記要因に加え、家庭顧客の需要増加に伴いサーバー1台あたりのボトル消費量が増加し、前年同期比で増加した。
- 加盟店部門では、上記要因に加え、サーバー販売台数が増加したことで、前年同期比で増加した。

営業利益（単位：百万円）



- 損益面では、直営・加盟店両部門において、売上高が増加したことで、営業利益が前年同期比で大幅に増加した。

2 セグメント別業績（1）クリクラ事業 ②

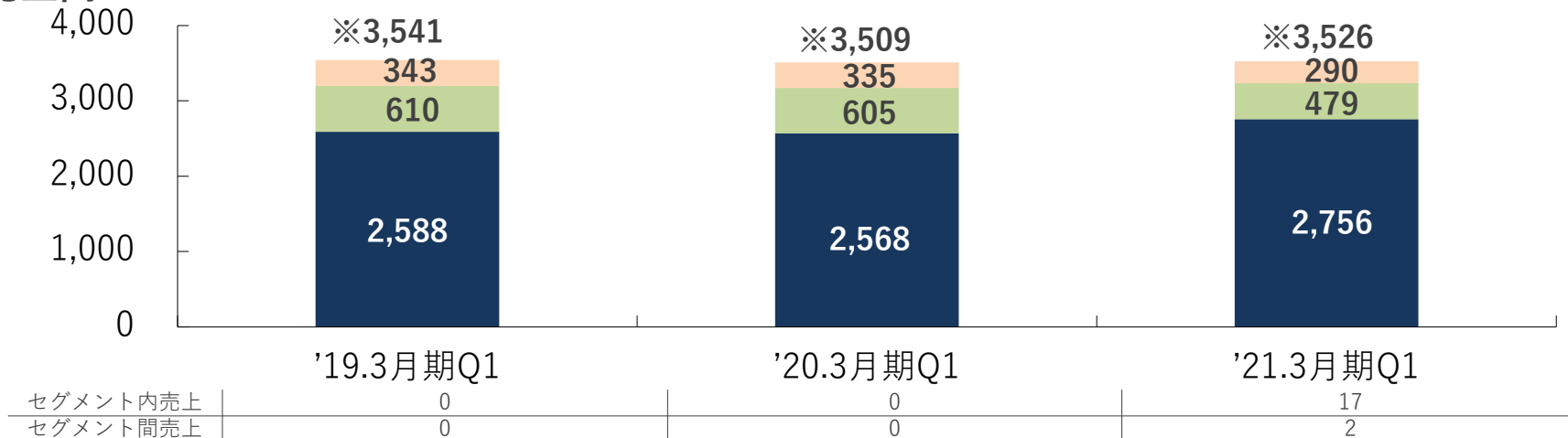


※ 第1四半期にテレビCMなどの販促費を増加し、第2四半期以降で利益率が高まる傾向。

2 セグメント別業績（2）レンタル事業 ①

売上高（単位：百万円）

■ ダスキン ■ with ■ アーネスト



※グラフの数値は上記のセグメント内売上を含む。（単位：百万円）

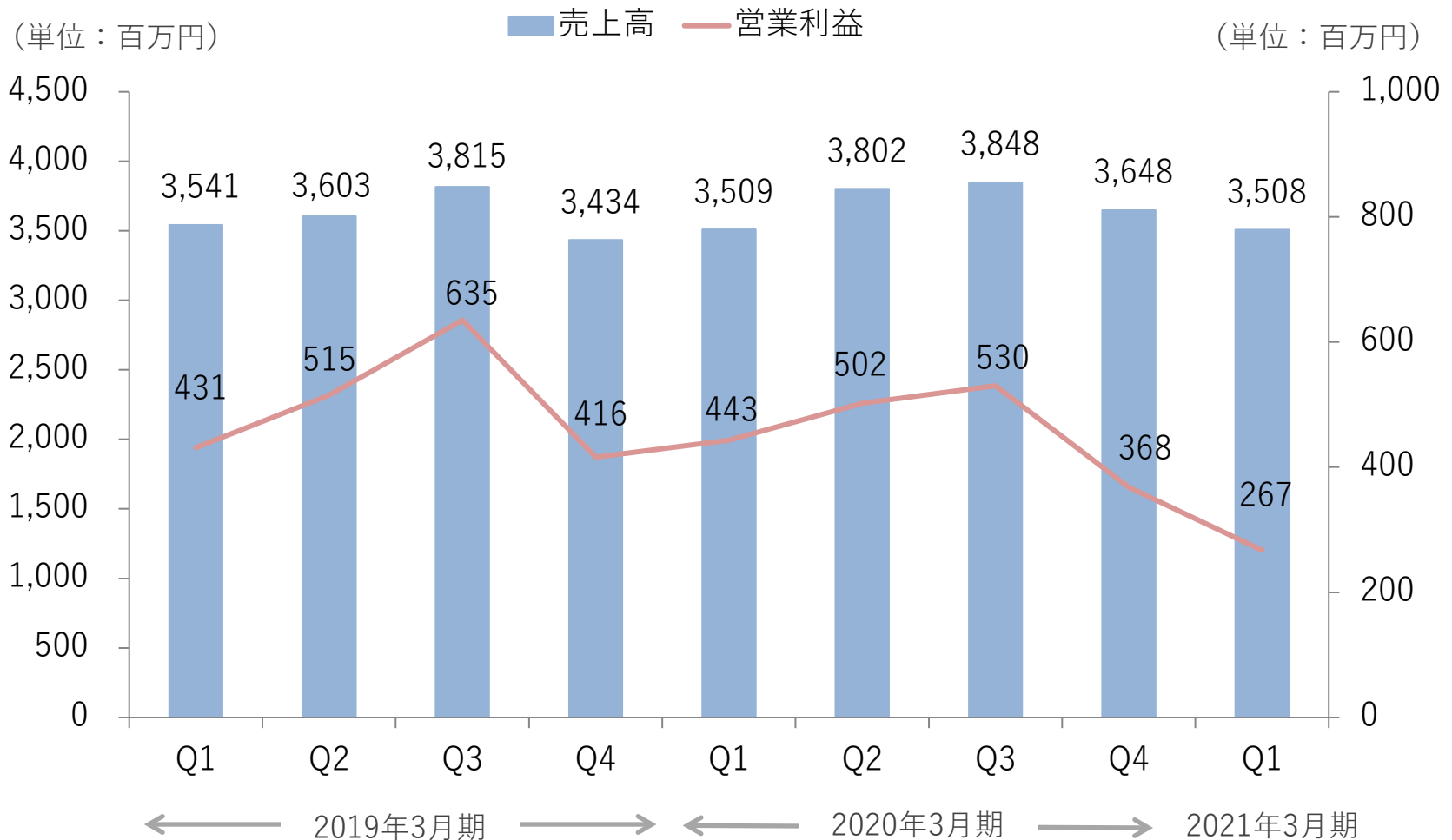
- ▶ ダスキン事業では、家事代行や害虫駆除、花と庭木の管理といった包括的な役務サービスを提供するトータルケアサービス部門における売上高減少を、売切り関連商品販売によって補ったことにより、前年同期を上回った。
- ▶ with事業（害虫駆除部門）では、主要顧客である大都市圏の飲食店業界が休業を余儀なくされたことにより、前年同期比で大幅に減少した。
- ▶ 法人向け定期清掃サービスを提供するアーネストでは、商業施設やオフィスなどの休業により、前年同期比で減少した。

営業利益（単位：百万円）



- ▶ 損益面では、利益率の高い害虫駆除事業の売上高が大幅に減少したことにより、営業利益が前年同期比で減少した。

2 セグメント別業績（2）レンタル事業 ②

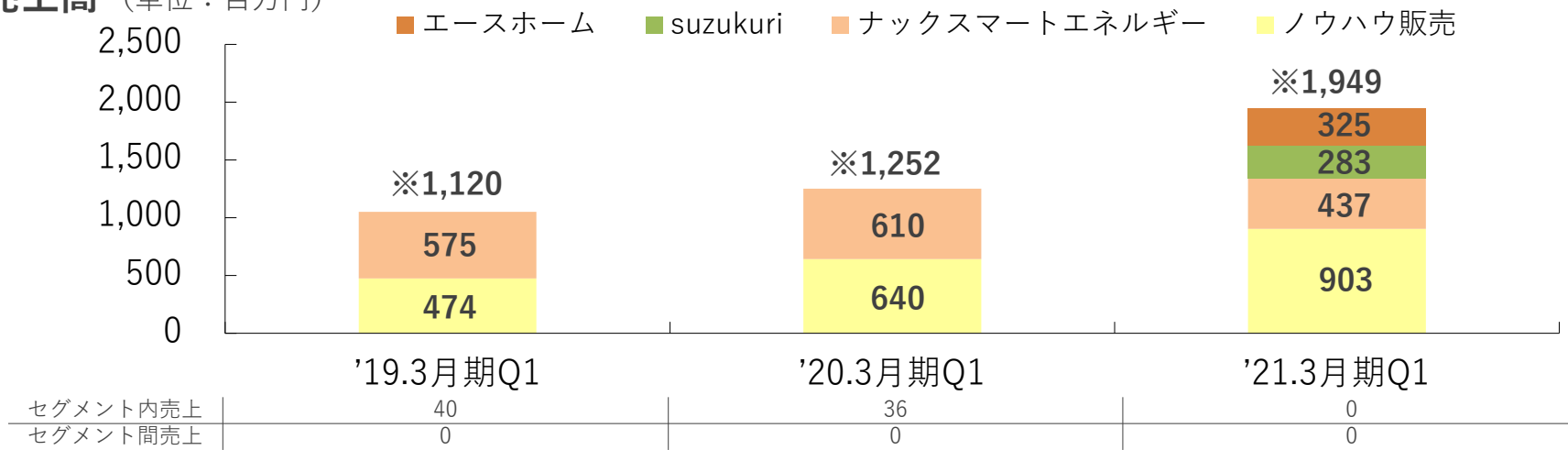


≫ 1年を通じて売上高・営業利益は安定。

2 セグメント別業績（3）建築コンサルティング事業 ①

注）2020年4月より、エコ&エコがナックススマートエネルギーに社名変更し、suzukuriを住宅事業セグメントから建築コンサルティング事業セグメントに移管しました。
なお、2020年3月期まで表示していた部資材販売はノウハウ販売とナックススマートエネルギーに含めています。

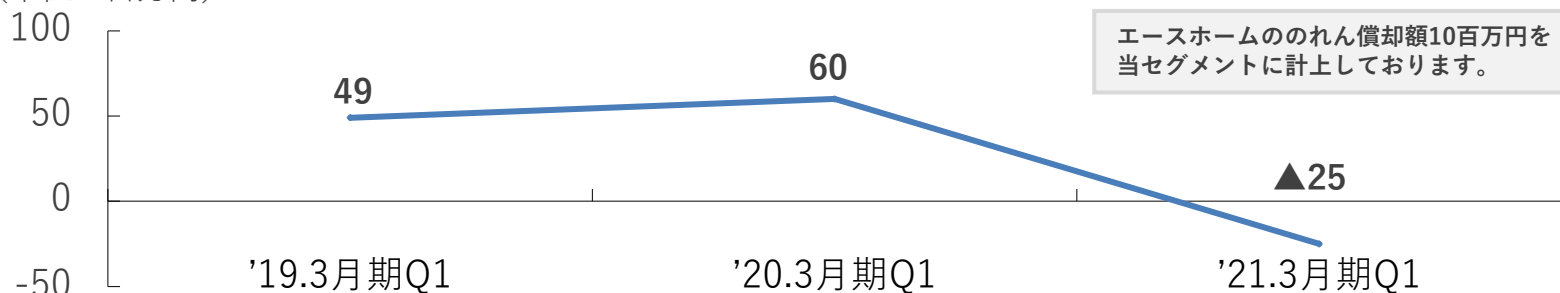
売上高（単位：百万円）



※グラフの数値は上記のセグメント内売上を含む。（単位：百万円）

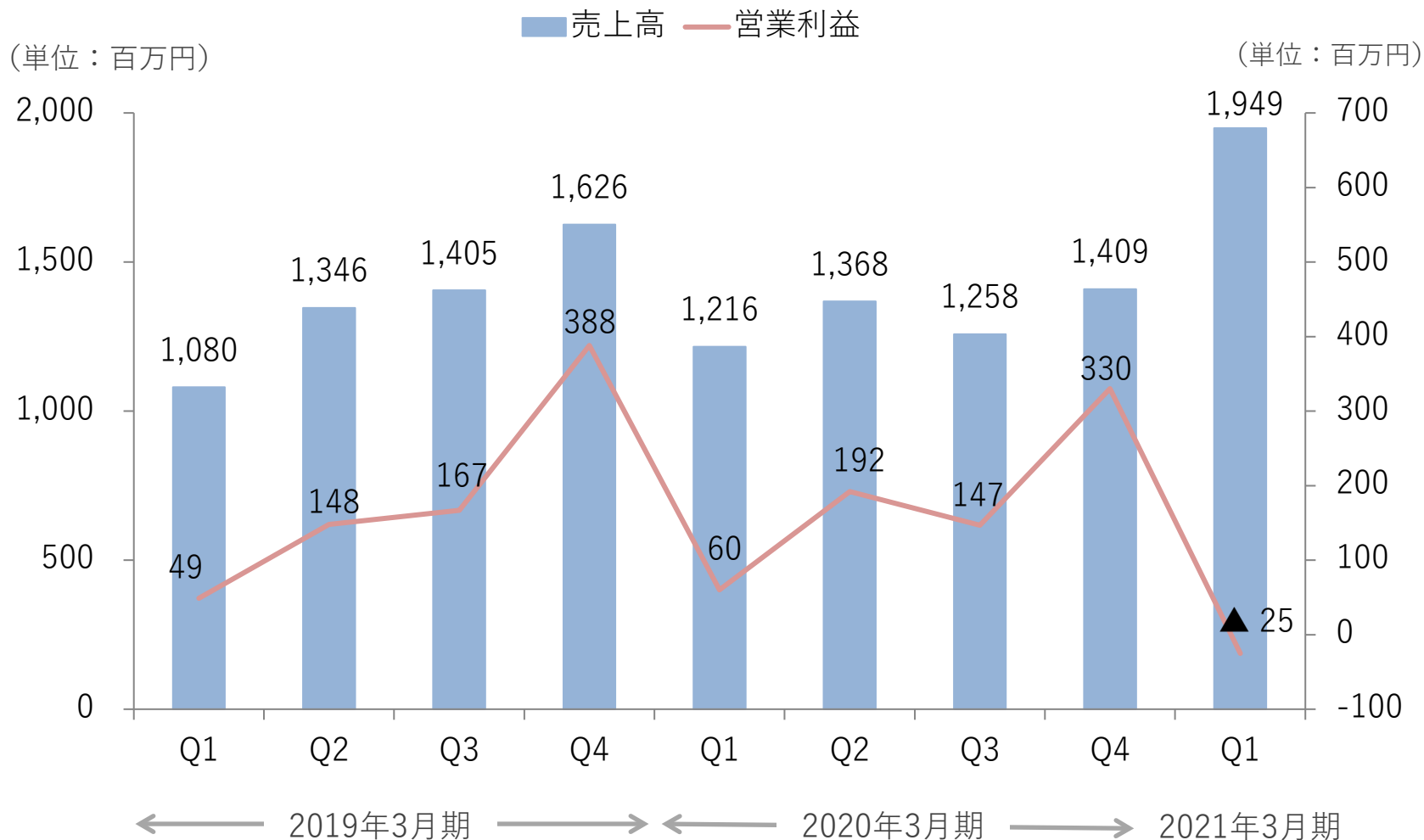
- ノウハウ販売部門では、感染症の影響を受けたものの、オンラインパッケージ商品の販売が好調だったことと、レオハウスへの商材販売により、前年同期比で増加した。
- ナックススマートエネルギーでは、感染症の影響で一部着工遅れが発生したことにより、前年同期比で減少した。

営業利益（単位：百万円）



- 損益面では、suzukuriとエースホームに加え、ナックススマートエネルギーも赤字計上したことにより、前年同期比で減少した。

2 セグメント別業績（3）建築コンサルティング事業 ②

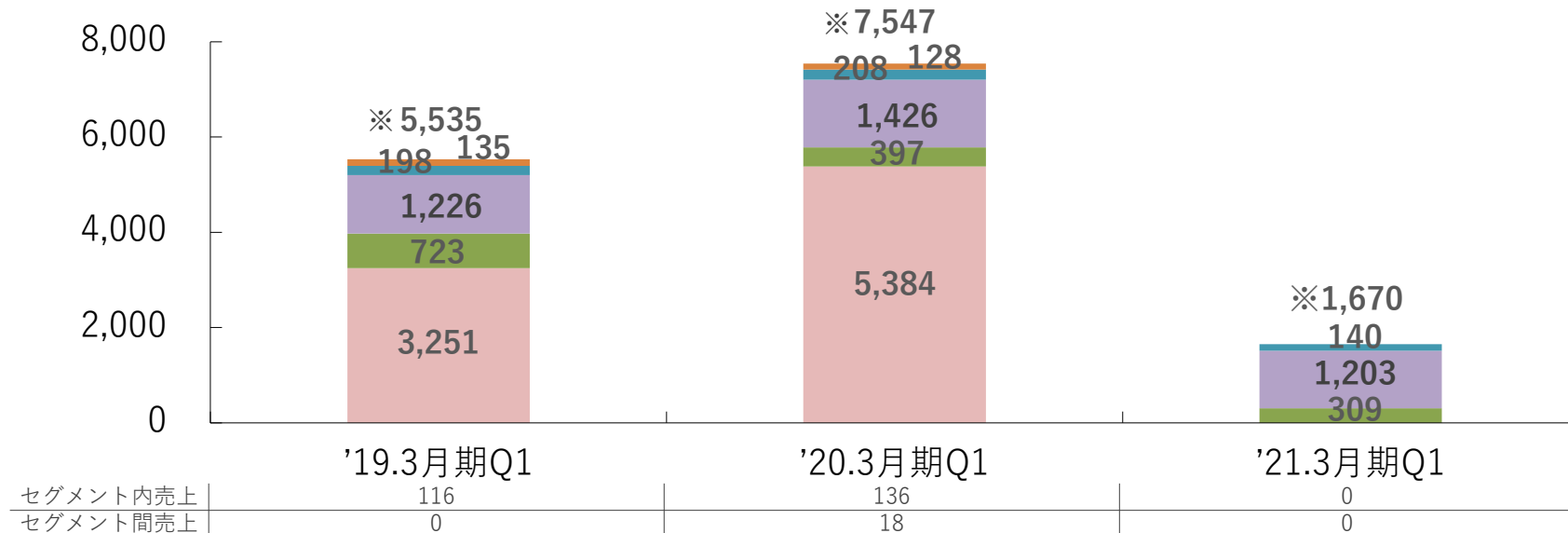


» 住宅市場がメインターゲットとなるため、売上高・営業利益ともに、第4四半期に集中する傾向。
suzukuriとエースホームが当事業セグメントに加わったことでこの傾向が強まっている。

2 セグメント別業績（４）住宅事業 ①

注）当社は2020年5月14日にレオハウスの全株式を譲渡したため、今期初より連結から除外しております。
また、suzukuriを住宅事業セグメントから建築コンサルティング事業セグメントに移管しました。

売上高（単位：百万円） ■ レオハウス ■ ジェイウッド ■ ケイディアアイ ■ 国木ハウス ■ suzukuri



※グラフの数値は上記セグメント内売上とセグメント間売上を含む。(単位：百万円)

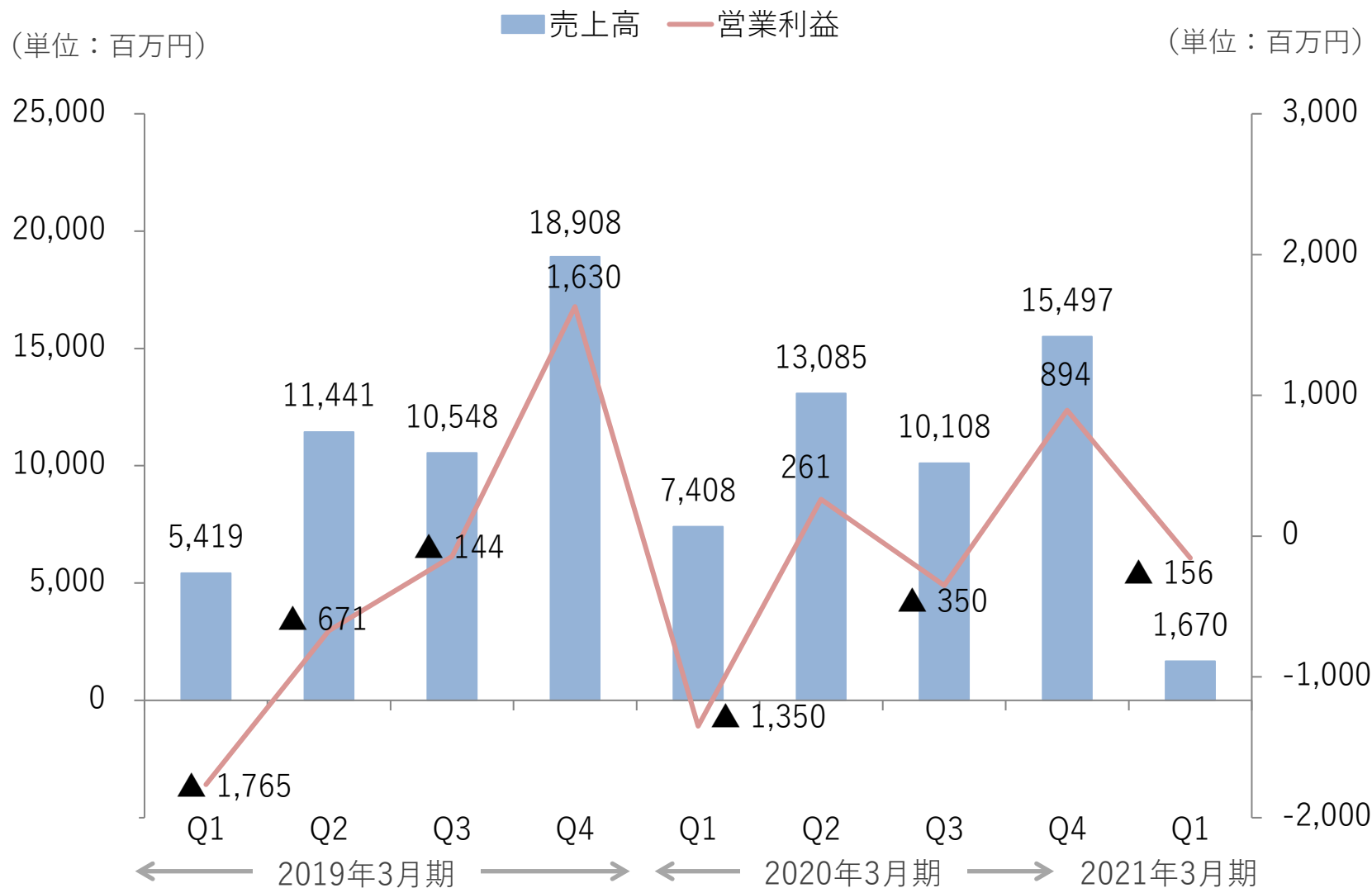
- レオハウスの全株式譲渡にともない、前年同期比で大幅に減少した。
- ジェイウッドと国木ハウスでは、期初の受注残が前年同期を下回ったことにより、売上高が前年同期比で減少した。

営業利益（単位：百万円）



- 損益面では、レオハウスの全株式譲渡にともない、同社の業績数値（前年同期赤字計上）を、当社グループの連結業績から除外したことにより、営業損失が前年同期比で減少した。

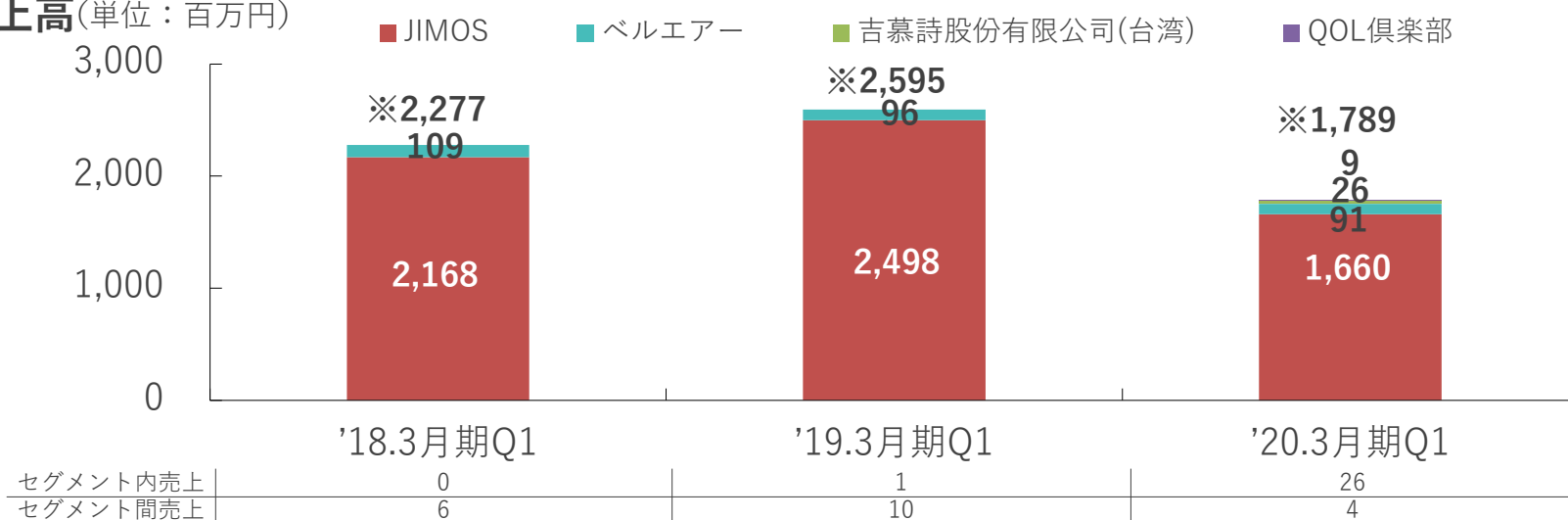
2 セグメント別業績（4）住宅事業 ②



≫ 住宅の引渡しが集中する第4四半期に売上高・営業利益が高まる傾向。

2 セグメント別業績（5）美容・健康事業 ①

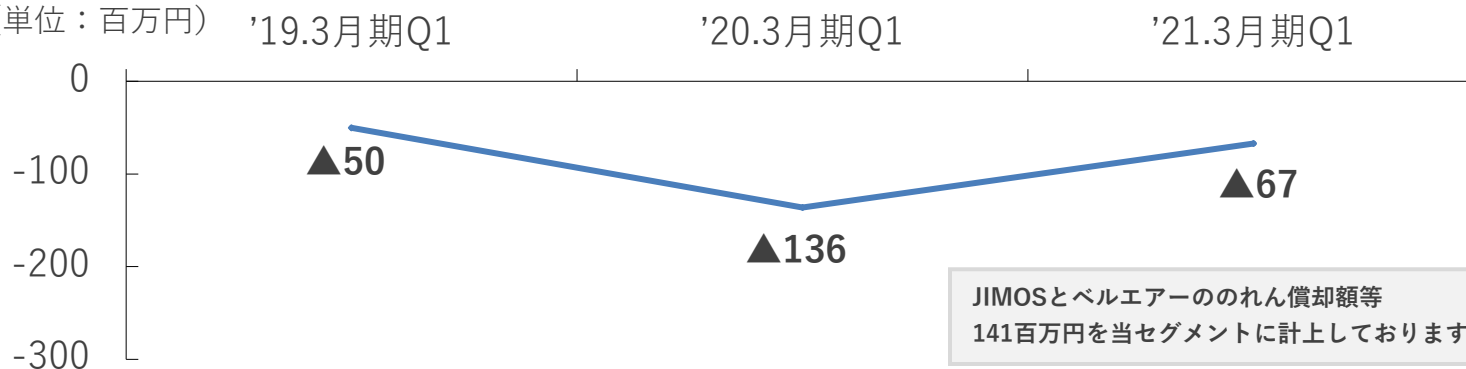
売上高(単位：百万円)



※グラフの数値は上記セグメント内売上とセグメント間売上を含む。(単位：百万円)

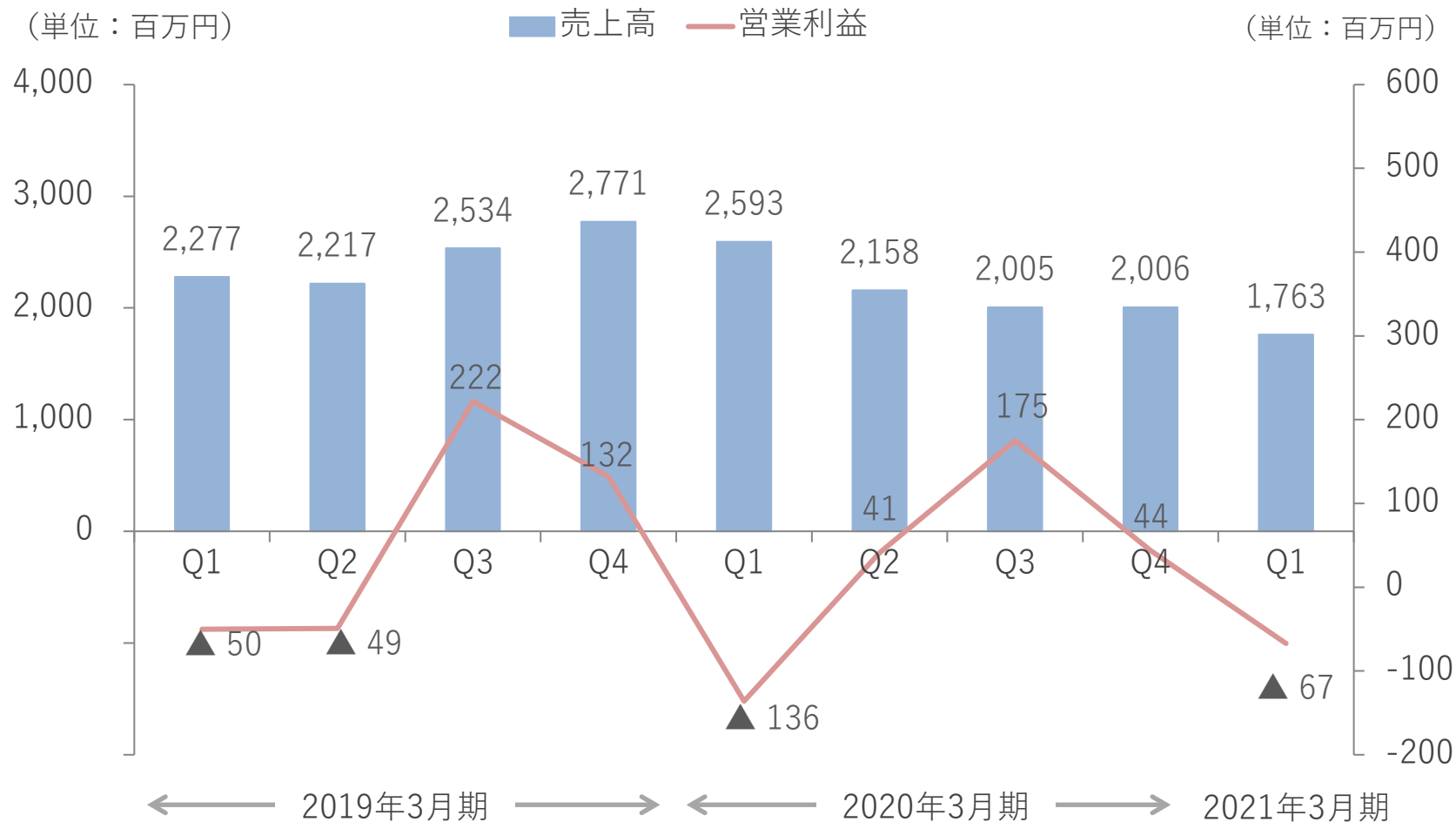
≫ JIMOSにおいて、自社ECサイトで使用しているサーバーへの不正アクセスが発生し、一時的にECサイトを停止したことで顧客数が減少したことが響き、前年同期比で減少した。

営業利益(単位：百万円)



≫ 損益面では、JIMOSにおいて広告宣伝費を中心とする販売費及び一般管理費を削減したことにより営業損失が前年同期比で減少した。

2 セグメント別業績（5）美容・健康事業 ②



» 上期に販促費を投入し、下期に売上高・営業利益が高まる傾向。

3. 2021年3月期 連結業績予想

3 2021年3月期 連結業績予想

2021年3月期の業績予想につきましては、全事業セグメントが新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けており、先行きが不透明な状況が継続する中、現時点において影響金額を合理的に算出することが困難であることから、未定としております。

今後、業績予想の開示が可能となった時点で速やかに公表いたします。

レンタル

【ダスキ事業】

⇒ M&A戦略にもとづく顧客数の拡大

⇒ 資本業務提携にもとづく既存事業（サービスマスター事業、メリーメイド事業、ターミニックス事業、トータルグリーン事業およびホームリペア事業）の出店拡大、介護・福祉用具をレンタルするヘルスレント事業での新規出店

【害虫駆除事業】

⇒ 副商材の販売強化による顧客層の拡大

建築コンサルティング

【ノウハウ販売部門】

⇒ オリジナル新商品の開発と、セミナーに代わる販売手法の見直し

【ナックススマートエネルギー（※1）】

⇒ 国や自治体の省エネ施策が軸足を置く住宅市場への販売促進活動を強化

【suzukuri（※2）】

⇒ 既存事業に加え、独自性のあるコンセプトをパッケージ化した商品を地場工務店に提供

クリクラ

【クリクラ事業】

⇒ Webなどの販売手法の強化を通じた顧客件数の拡大

⇒ ZiACOのブランド強化と生産キャパシティの拡大、生産性向上を目的に、新規投資を実施

住宅

【ジェイウッド】

⇒ 資料請求やWeb商談での新規顧客の獲得

【ケイディアイ】

⇒ 需給バランスをふまえた用地仕入と建築コストの削減

【国木ハウス】

⇒ デザイン性訴求による独自化

美容・健康

【JIMOS】

⇒ ECサイトの抜本的なりニューアル、海外通販など販売チャネルの拡大

【ベルエアー】

⇒ 他事業のネットワークを利用したマーケットの拡大や製品開発

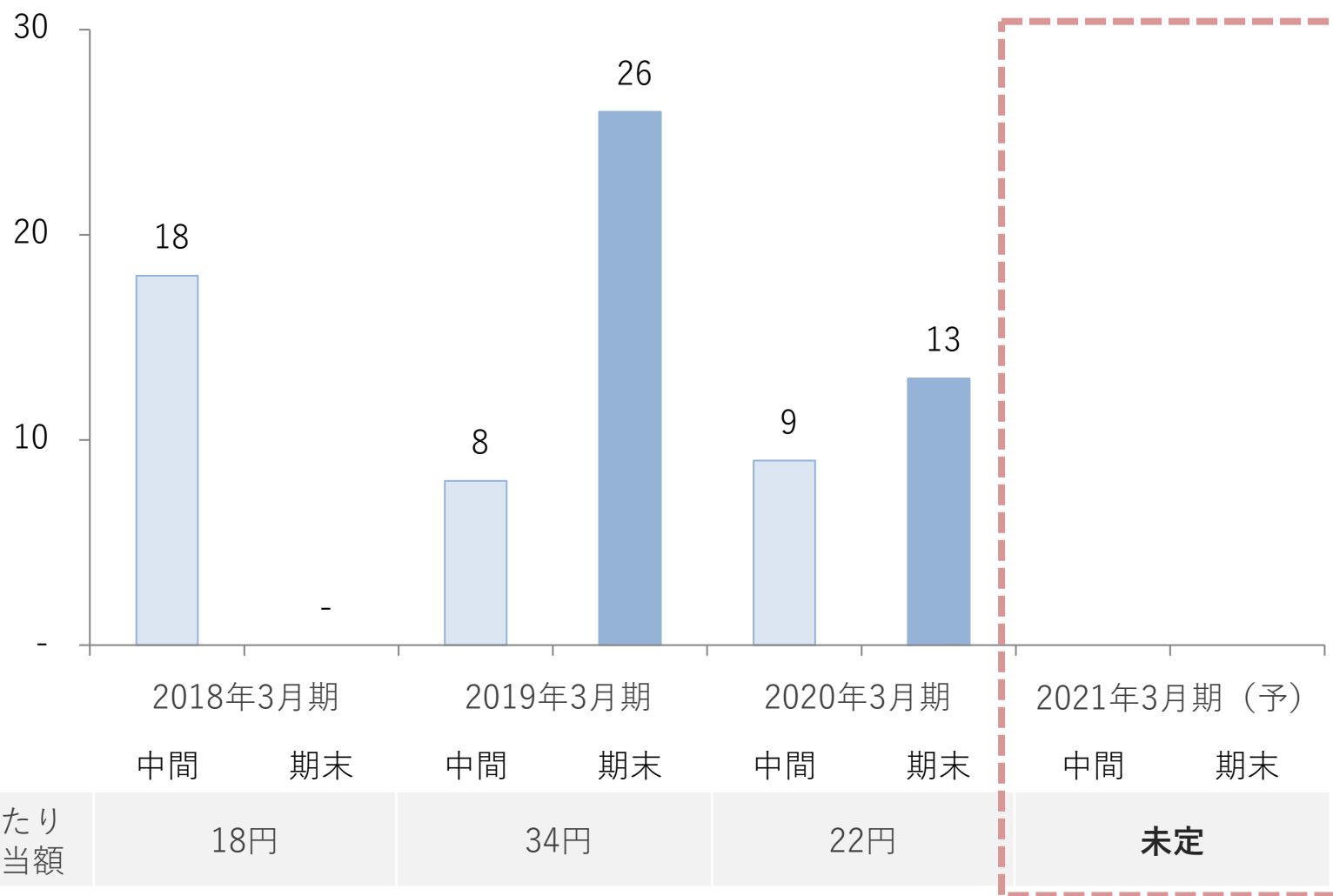
※1 2020年4月に株式会社エコ&エコより社名変更

※2 2021年3月期より建築コンサルティング事業セグメントに変更

4. 配当方針

4 配当方針：純資産配当率(DOE) 4 %かつ配当性向100%以内

(単位：円)



※ 2021年3月期年間配当額は未定。

※ 2019年3月期より、中間・期末の支払割合を従来の「1：1」から「1：3」の比率に変更。

5. 補足資料 会社概要と事業紹介

5 会社概要

(2020年3月末 現在)

商号	株式会社ナック (NAC CO., Ltd.)
所在地	東京都新宿区西新宿一丁目25番1号 新宿センタービル
設立	1971年5月20日
代表者	代表取締役社長 吉村 寛
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ■ クリクラ事業：宅配水「クリクラ」及び次亜塩素酸水溶液「ZiACO(ジアコ)」の製造・販売 ■ レンタル事業：ダストコントロール商品と害虫駆除器のレンタル・販売及び定期清掃業務等 ■ 建築コンサルティング事業：地場工務店に対する建築関連ノウハウ商品及び建築部資材の販売と施工、コンサルティング業務並びに住宅フランチャイズ事業 ■ 住宅事業：戸建注文住宅の建築請負、分譲住宅の販売及びそれに付随する金融・保険業務 ■ 美容・健康事業：化粧品・健康食品及び美容材料等の通信販売
連結子会社	<p>株式会社アーネスト (ビルメンテナンス事業) 株式会社 JIMOS (美容・健康事業) 株式会社ベルエアー (美容・健康事業) 株式会社ジェイウッド (住宅事業) ナックススマートエネルギー株式会社 (省エネ商材販売・工事) 株式会社ケイディアイ (住宅事業) 株式会社ナックライフパートナーズ (金融・福利厚生) 株式会社国木ハウス (住宅事業) 株式会社suzukuri (住宅事業) エースホーム株式会社 (住宅フランチャイズ事業) 吉慕詩股份有限公司(台湾) (美容・健康事業)</p>
従業員数 (正社員)	連結2,237名 (パートタイマー、アルバイトは除く)
資本金	6,729,493,750円
発行済株式数	24,306,750株 (一単位：100株)
株主数	14,483名 (自己名義株式を除く総株主数)

5 主な指標（連結ベース）経営指標から

	'20.3月期 実績	'19.3月期 実績	増減
期中平均発行済株式数	22,405,194 株	19,802,890 株	+ 2,602,304株
1株当り純資産（BPS）	881.83 円	899.84 円	▲ 18.01 円
1株当り当期純利益 （EPS）	22.94 円	40.32 円	▲ 17.38 円
自己資本比率	42.6 %	40.6 %	+ 2.0 pt
自己資本純利益率 （ROE）	2.6 %	4.7 %	▲ 2.1 pt
1株当り配当金	22 円	34 円	▲ 12 円
配当性向	95.9 %	84.3 %	+ 11.6 pt
純資産配当率	2.5 %	3.9 %	▲ 1.4 pt

5 沿革

1971年 5月	東京都町田市に株式会社ダスキン鶴川設立	
1977年 8月	株式会社ナックに商号変更	
1995年 9月	日本証券業協会（現：JASDAQ）に店頭登録	
1997年 1月	東京証券取引所市場第二部上場	
1999年 9月	東京証券取引所市場第一部指定	
2001年 12月	宅配水事業「クリクラ」に進出	
2002年 2月	連結子会社（現：株式会社レオハウス）で住宅事業に進出	
2010年 3月	創業 40周年、売上高 500億円達成	
2012年 3月	株式会社 アーネストを子会社化	
2013年 7月	株式会社 JIMOSを子会社化、株式会社ジェイウッドを子会社化	
2015年 4月	クリクラ本庄工場新設	
2015年 9月	株式会社エコ&エコ（現：ナックススマートエネルギー株式会社）を子会社化	
2016年 5月	株式会社ケイディアイを子会社化	
2016年 12月	株式会社ベルエアーを子会社化	
2017年 4月	株式会社suzukuriで住宅事業を開始	
2017年 6月	株式会社国木ハウスを子会社化	
2020年 2月	エースホーム株式会社を子会社化	
2020年 5月	株式会社レオハウスの全株式を譲渡	

5 各事業の市場におけるポジショニング

(2020年6月末 現在)

クリラ事業

- 製造本数**業界No.1**(約1,800万本)
- **業界初**のHACCP認証、ecoマークを取得
- **業界初**の研究開発専門センター設立

レンタル事業

- ダスキンフランチャイズディーラー**売上No.1** (約2,000社中)
- **日本初**の厚生労働省承認の薬剤を使用する 飲食店向け害虫駆除器「with」

建築コンサルティング事業

- ナック会員工務店 **約7,000社**
- 地場工務店向け「受注促進」「原価低減」支援事業
- 太陽光発電システム、スマートハウス商材などの卸販売
- 2015年9月より省エネ商材販売・工事を手がける株式会社エコ&エコ (現：ナックススマートエネルギー株式会社) を子会社化
- 2017年4月より異業種との提携し住宅事業を展開する株式会社suzukuriを子会社化 (2020年4月より、住宅事業セグメントから変更)
- 2020年2月より住宅フランチャイズ事業を展開するエースホーム株式会社を子会社化

住宅事業

- 2013年7月より自然素材住宅を手がける株式会社ジェイウッドを子会社化
- 2016年5月より首都圏を中心に分譲・注文住宅を手がける株式会社ケイディアイを子会社化
- 2017年6月より北海道で住宅事業を展開する株式会社国木ハウスを子会社化

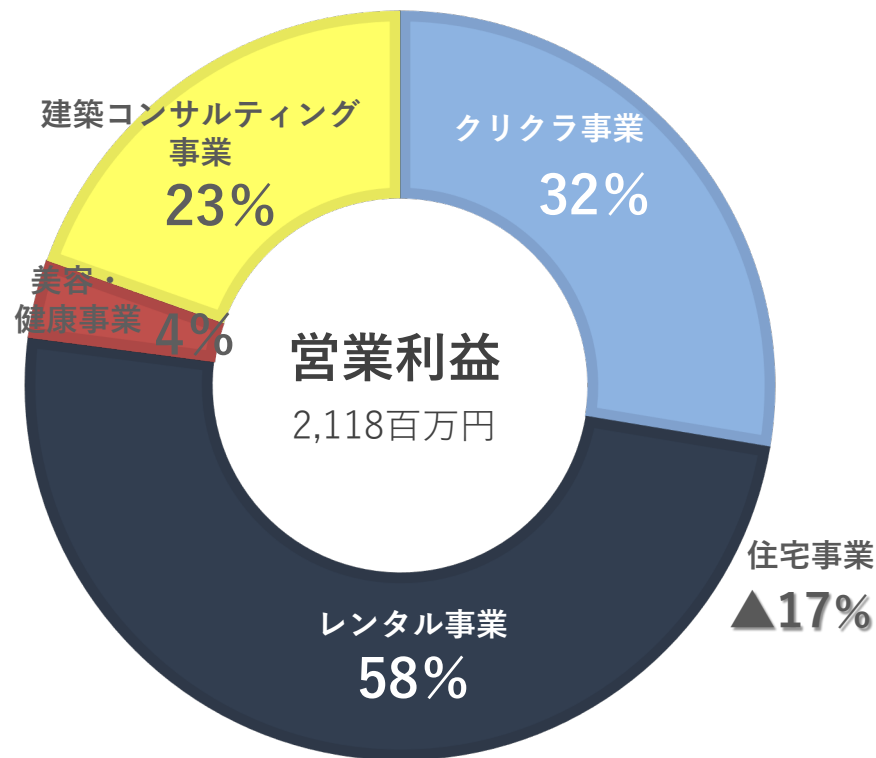
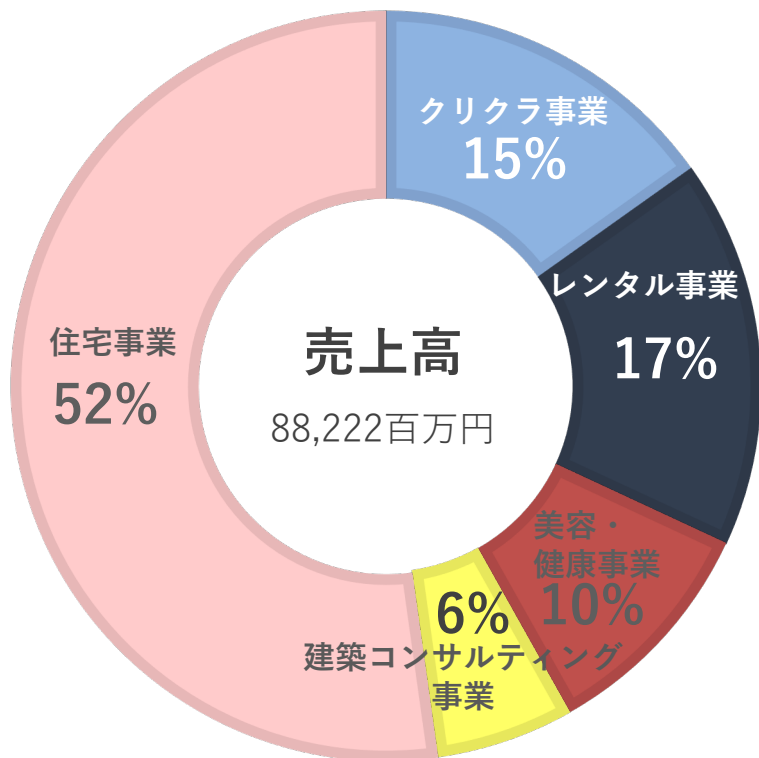
美容・健康事業

- 2013年7月、株式会社 JIMOS の子会社化により美容・健康事業参入
- 40~60代の女性を中心に、基礎化粧品が主力
- 2016年12月より栄養補助食品 (サプリメント) を手がける株式会社ベルエアーを子会社化

5

売上高・営業利益構成比 (20.3期実績)

- クリクラ事業
- レンタル事業
- 美容・健康事業
- コンサル事業
- 住宅事業



売上高営業利益率

※本社費は除外しています

クリクラ事業	レンタル事業	建築コンサルティング事業	美容・健康事業	住宅事業	全社
7.7%	12.5%	13.9%	1.43%	▲1.2%	2.4%

5 セグメント別営業利益の推移

- ▶ 安定したレンタル、クリックラ、建築コンサルティングを基盤に、積極的に投資をして成長を目指す。
- ▶ 新型コロナウイルス感染症が業績に与える影響金額を合理的に算出することが現状困難であるため、2021年3月期の業績予想は未定。

